

令和 6 年度新事業創出・食品産業課題解決プラットフォーム運営・
調査委託事業のうち

フードテック官民協議会運営等委託事業

事業報告書

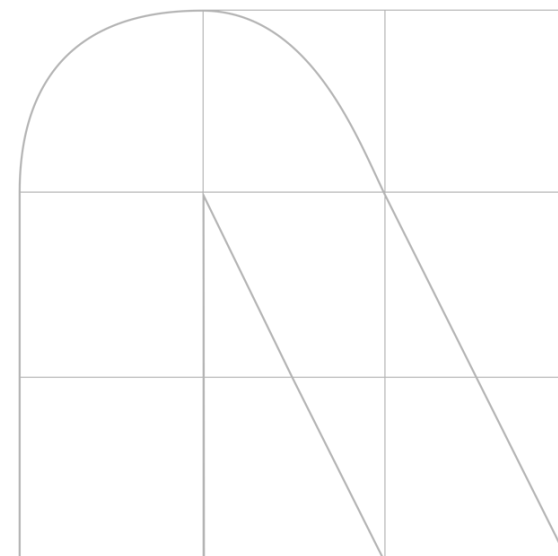
2025年3月18日

株式会社NTTデータ経営研究所

目次

(1) 協議会事務局運営	3
① 総会の開催	4
② 提案・報告会の開催	4
③ 会員の入退会受付、会員名簿の管理	7
④ フードテックに係る情報発信・啓発活動	8
(2) 会員等のマッチングの強化	10
(3) スタートアップエコシステムの強化	10
(4) フードテックビジネスコンテスト業務	18
① 審査委員の選任	19
② ビジネスプランの募集	21
③ 審査委員会の運営	23
④ 本選審査及び表彰式の運営	24
⑤ 副賞等の企画	27
⑥ 受賞者の情報発信	28
(5) WT・CCの進行管理及び運営支援	29

(1) 協議会事務局運営



① 総会の開催、② 提案・報告会の開催（1/3）

総会／提案・報告会を3回開催し、WT・CC、会員、関係者からの報告、有識者講演、ネットワーキング等を実施した。

令和6年度 第1回 開催概要

日時：2024年6月26日（水）14:30～18:00

場所：ミライナタワーマイナビルーム新宿（オンライン併催）

参加者：237名（会場86名、オンライン151名）

議事：

1. 農林水産省ご挨拶
2. 今年度の実施内容・スケジュール案
3. WT・CCからの提案・報告
 - ・ 細胞農業CC、細胞農業WT、スマート育種産業化WT
4. 会員・関係者から提案・報告（全12団体発表）
5. 特別講演「代替タンパク質に関するオランダの取組と日本への期待」
 - ・ オランダ王国農業・自然・食品品質省 ルーカス・デュ・プレ氏
6. 事務局からのご案内
7. ネットワーキング（全11団体ブース出展）



① 総会の開催、② 提案・報告会の開催（2/3）

総会／提案・報告会を3回開催し、WT・CC、会員、関係者からの報告、有識者講演、ネットワーキング等を実施した。

令和6年度 第2回 開催概要

日時：2024年10月23日（水）14:30～18:00

場所：農林水産省7階講堂（オンライン併催）

参加者：178名（会場88名、オンライン90名）

議事：

1. 農林水産省ご挨拶
2. 農林水産省からの発表「あつまれ！「知」の集積と活用の中！」
3. WT・CC・勉強会からの提案・報告
 - ・ヘルス・フードテックWT、細胞農業CC、FOOD TECH LAB CC、健康×おいしさの食品機能勉強会、消費者アプローチ勉強会
4. 特別講演「早稲田大学におけるフードテック関連研究への取り組み」
 - ・早稲田大学 理工学術院 教授／ナノ・ライフ創新研究機構 規範科学総合研究所 研究所長 竹山 春子
 - ・早稲田大学 研究戦略センター 教授 丸山 浩平
5. 農研機構からの発表「発酵産業を支援する乳酸菌データベースの公開とその利用」
6. 会員・関係者からの提案・報告（全7団体発表）
7. 事務局からのご案内
8. ネットワーキング（全11団体ブース出展）



① 総会の開催、② 提案・報告会の開催（3/3）

総会／提案・報告会を3回開催し、WT・CC、会員、関係者からの報告、有識者講演、ネットワーキング等を実施した。

令和6年度 第3回 開催概要

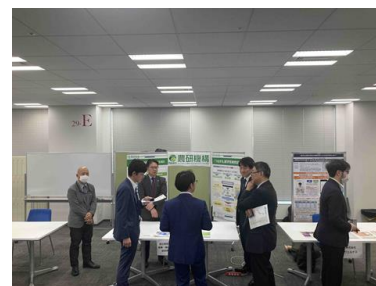
日時：2025年2月19日（水）14:30～18:00

場所：京橋エドグラン29F（オンライン併催）

参加者：270名（会場124名、オンライン146名）

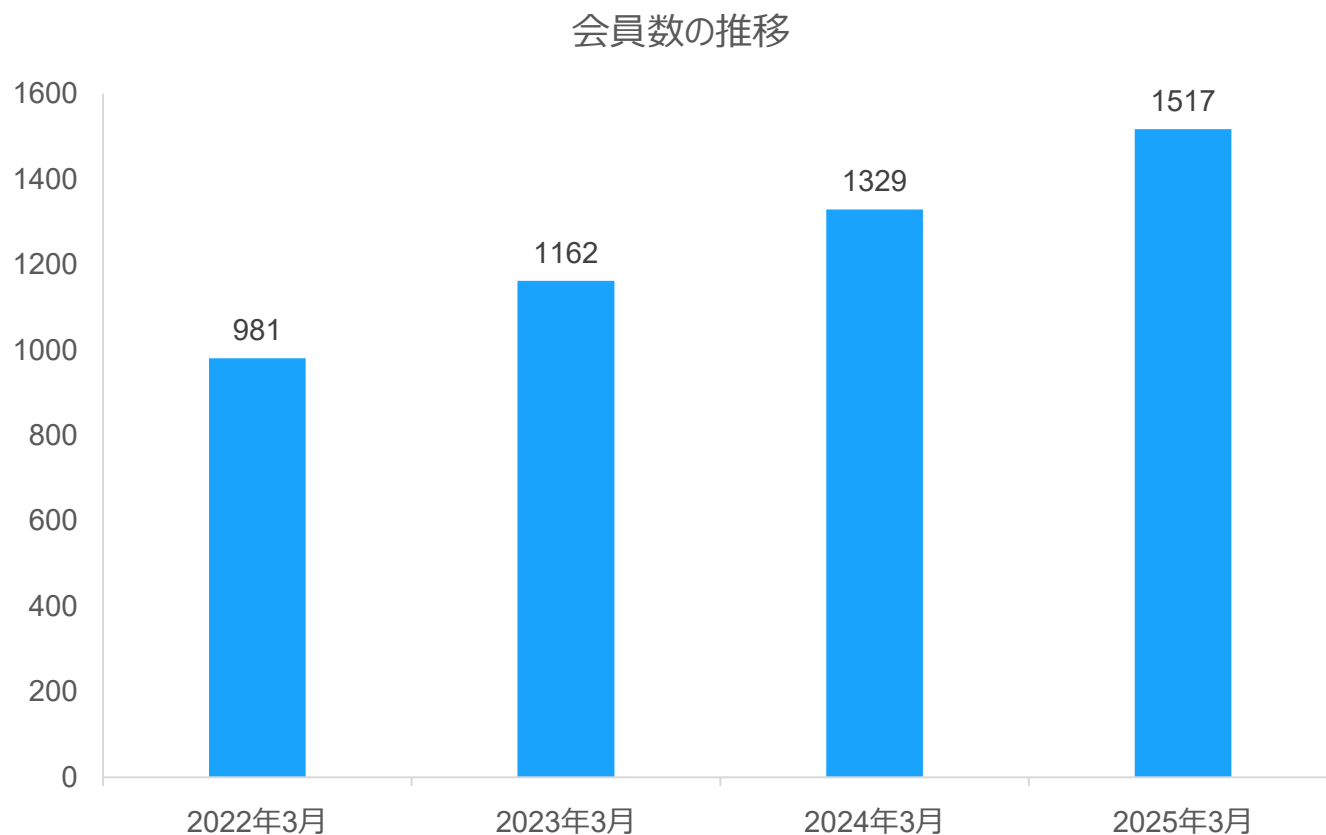
議事：

1. 農林水産省ご挨拶
2. WT・CC・勉強会からの提案・報告
 - ・ SPACE FOOD WT、美食テックWT、食と教育WT、食スタートアップ未来会議CC、金融勉強会CC
3. 農研機構からの発表「農産物の食味・食感を光で数値化する」
4. 農水省・省庁・各機関からのフードテックやスタートアップへの支援策の説明の紹介
5. フードテックビジネス実証事業における企業・スタートアップからの発表（全5団体発表）
 - ・ 事務局：株式会社パソナ農援隊
6. 事務局からの報告
7. ネットワーキング（全14団体ブース出展）



③ 会員の入退会受付、会員名簿の管理

会員の入退会は、農林水産省及びフードテック官民協議会のホームページにリンクを設置した当社の「資料請求フォーム」を通じて実施。会員数は毎年150人以上増加しており、2025年3月時点では1,500名超となった。



④ フードテックに係る情報発信・啓発活動（1/2）

2024年6月24日にフードテック官民協議会ホームページを開設した。（<https://food-tech.maff.go.jp/>）
サイトには協議会の紹介、イベントカレンダー、ビジネスコンテストの情報やメールマガジンのアーカイブ等を掲載した。
また、会員限定ページにはWT・CC等の情報を掲載した。

ウェブサイトイメージ



会員専用ページ



④ フードテックに係る情報発信・啓発活動（2/2）

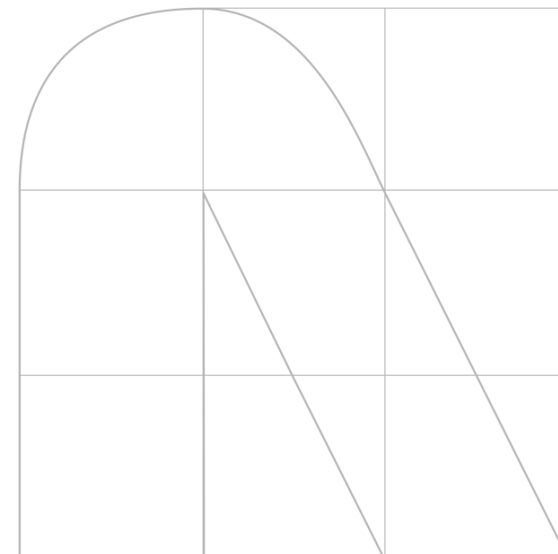
会員向けの情報提供として、毎月国内外のフードテックをめぐる動向やフードテックに関連する情報をメールマガジン「フードテックマンスリーレポート」にて配信した。また、農林水産省や関連省庁、会員からの依頼に基づき、月次以外に毎週1～2回程度のメールマガジンで会員に対して関連する情報を提供した。

毎月のメールマガジン配信数

発行月	事務局からのお知らせ (フードテック官民協議会主催イベント、 会員向けアンケート、マンスリーレポート等)	会員・関係者からのお知らせ	合計
2024年4月	1	2	3
2024年5月	4	2	6
2024年6月	7	5	12
2024年7月	3	15	18
2024年8月	3	10	13
2024年9月	7	7	14
2024年10月	9	11	20
2024年11月	6	6	12
2024年12月	5	5	10
2025年1月	9	4	13
2025年2月	6	6	12

（２） 会員等のマッチングの強化

（３） スタートアップエコシステムの強化



① 総会／提案・報告会におけるマッチングの場創出

各回の総会／提案報告会において、会員及び関係者からの発表及びブース出展を募集し、フードテック関連の取組や技術シーズの紹介、イベント告知等が行われた。

※順不同

	第1回総会／提案報告会	第2回総会／提案報告会	第3回総会／提案報告会
発表	・ グランドグリーン（株） ・ （株）AlgaeX ・ 日本航空電子工業（株） ・ EFポリマー（株） ・ （株）ソーイ ・ （株）ファームステーション ・ NTTグリーン&フード（株） ・ OISSY（株） ・ 合同会社リュウノポリ ・ （株）メロス/Rethink ・ 神戸市経済観光局 ・ （株）MNH	・ （一社）WE AT ・ 関西文化学術研究都市推進機構 ・ RX Japan（株） ・ チャータードインベストメントマネージャーズ ・ B Market Builder Japan ・ 東京富士大学経営学部 ・ （株）WAKU	・ （株）ぐるなび ・ fabula（株） ・ ベースフード（株） ・ （株）クオントムフラワーズ&フーズ ・ フェルメクテス（株） ※フードテックビジネス実証事業における企業・スタートアップからの発表
出展	・ グランドグリーン（株） ・ （株）AlgaeX ・ 日本航空電子工業（株） ・ EFポリマー（株） ・ （株）ソーイ ・ （株）ファームステーション ・ 中小企業基盤整備機構 ・ ICS-net（株） ・ ミツイワ（株） ・ （株）コル	・ 関西文化学術研究都市推進機構 ・ B Market Builder Japan ・ （株）エヌ・ディ・シー ・ ミツイワ（株） ・ ICS-net（株） ・ （株）ファームステーション ・ （株）MNH ・ （株）ファームシップ ・ 中小企業基盤整備機構 ・ 農研機構	・ （株）ぐるなび ・ fabula（株） ・ （株）クオントムフラワーズ&フーズ ・ フェルメクテス（株） ・ （株）セツロテック ・ （株）NINZIA ・ （株）楽々 ・ （株）ファーストスクリーニング ・ （株）ファームシップ ・ 農研機構 ・ （株）ファームステーション ・ （株）島津製作所 ・ 東京富士大学／食と教育のWT ・ （株）ウェルナス

② イベントの開催概要

官民の支援機関と連携し、フードテック官民協議会内外でのマッチングや、スタートアップエコシステムの活性化を図るためのイベントを実施した。

セミナー・イベントのテーマ

公的支援機関 との連携	2024年9月17日 @東京 セミナー「中小機構スタートアップ支援の 取り組み」	- 公的機関の支援を十分活用できていないスタートアップ向け、販路拡大・ハンズオン支援策・インキュベーション施設の概要・活用事例を紹介した。 - 中小機構の支援するスタートアップからの取組紹介した。	(2) 会員等の マッチングの 強化	(3) スタートアップエコシステム の強化
地方 との連携	2024年10月7日 @神戸 2024年11月1日 @熊本 2025年1月14日 @静岡 イベント「地方フードテックミーティング」	フードテック支援に注力している地方自治体等と連携し、地方のスタートアップに向けた情報提供を行った。また、地方から全国の会員に向けて情報発信し、官民協議会のネットワーク拡大を図った。	(2) 会員等の マッチングの 強化	(3) スタートアップエコシステム の強化
消費者 アプローチ	2024年12月12日 @東京 勉強会「消費者を知る・消費者に伝える フードテック」	食経験の無い／乏しい新規食品を開発する企業向けに、当該食品の需要を喚起するための施策を検討するワークショップの実施した。		(3) スタートアップエコシステム の強化
国内展示会 との連携	2024年11月20日～22日 @幕張 「第5回フードテックジャパン東京」協力企画	フードテック展示会にて、スタートアップの情報発信の場を提供するため、「食の資源循環フォーラム」へのセミナー登壇や特別出展を募集した。	(2) 会員等の マッチングの 強化	

③ セミナー「中小機構スタートアップ支援の取り組み」

開催概要

日時：2024年9月17日（火） 15:00～18:00

場所：京橋エドグラン29F（オンライン併催）

参加者：現地33名、オンライン52名

議事：

1. 中小機構スタートアップ支援の取り組み
2. 未来を拓くフードテックの挑戦
 1. 株式会社ウルバ／高知大学
 2. BugsWell株式会社
 3. 株式会社Logomix
 4. Floatmeal株式会社
 5. Blue Farm株式会社
 6. パネルディスカッション「スタートアップ支援に必要なこと」
3. 第3部 ネットワーキング（現地会場のみ）



④ 関西フードテックミーティング

開催概要

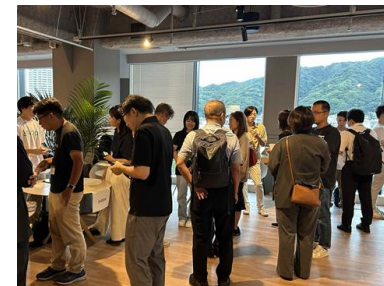
日時：2024年10月7日（月）14:00～16:40

場所：アンカー神戸（オンライン併催）

参加者：現地42名、オンライン62名

議事：

1. フードテック関連情報提供
 1. 神戸市
 2. 兵庫県
 3. NTTデータ経営研究所
2. 未来を拓くフードテックの挑戦
 1. フジッコ株式会社
 2. 株式会社Sydecas
 3. スパイスキューブ株式会社
 4. 株式会社PITTAN
 5. 株式会社スマショク
 6. yuppa
 7. 株式会社ROX
3. ネットワーキング（現地会場のみ）



⑤ 九州フードテックミーティング

開催概要

日時：2024年11月1日（金）14:00～17:00

場所：XOSS POINT.（熊本市）（オンライン併催）

参加者：現地21名、オンライン32名

議事：

1. フードテック関連情報提供
 1. 熊本県
 2. 熊本市
 3. NTTデータ経営研究所
2. 未来を拓くフードテックの挑戦
 1. エシカルプロダクツ株式会社
 2. 株式会社サイディン
 3. 株式会社ふく成
 4. トイメディカル株式会社
 5. トークセッション「熊本県フードテックエコシステムについて」
3. ネットワーキング（現地会場のみ）



⑥ 静岡・東海フードテックミーティング

開催概要

日時：2025年1月14日（火） 14:00～16:50

場所：静岡県産業経済会館（オンライン併催）

参加者：現地49名、オンライン77名

議事：

1. フードテック関連情報提供
 1. 農林水産省
 2. Plug and Play Japan株式会社
 3. 静岡県 新産業集積課
 4. フーズ・ヘルスケアオープンイノベーションセンター
 5. アグリオープンイノベーション機構
2. 未来を拓く静岡・東海フードテック企業
 1. 株式会社ファームシップ
 2. 株式会社kobachi
 3. Proximar株式会社
 4. 株式会社white from green
 5. 静岡県立農林環境専門職大学
3. ネットワーキング（現地会場のみ）



⑦ 勉強会「消費者を知る・消費者に伝えるフードテック」

開催概要

日時：2025年12月12日（木）15:00~18:00

場所：NTTデータ経営研究所

参加者：新規食品を扱う企業12名

議事：

1. 有識者講演

1. 愛知大学 地域政策学部 山口治子 教授「新規食品に向けたリスクコミュニケーション」
2. 東京大学経済学研究科 元木康介 講師「代替タンパク質の消費者受容」

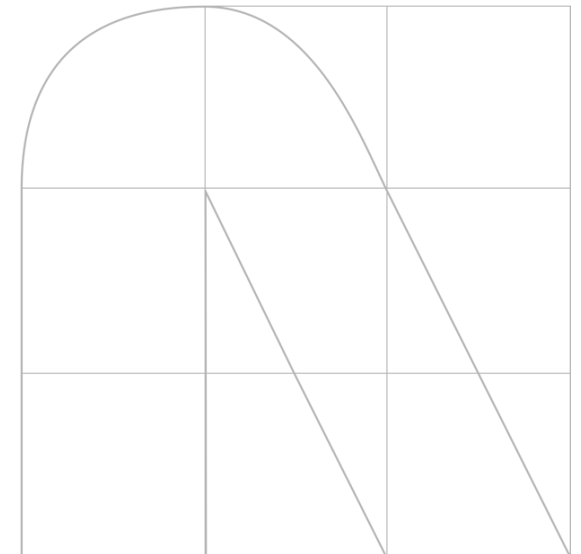
2. ワークショップ

1. ケース①「リスクコミュニケーション」
2. ケース②「新規食品のPR」

3. ネットワーキング



(4) フードテックビジネスコンテスト業務



① 審査委員の選任（1/2）

フードテックや、フードテックを活用したビジネスの情勢はもとより、食料需給・環境負荷低減など社会課題のマクロ的な視点、健康・環境志向など消費者需要やそれを含めた食産業、起業家育成・支援、資金調達、民連携等の観点に知見を持つ有識者より二次審査員では以下4名を選任した。

氏名	所属・役職	プロフィール
金 美里	Plug and Play Japan株式会社	Food & Beverageチーム初期メンバーとして、国内外のフードテック関連企業や団体との強固なネットワークを活かし、数多くのスタートアップの日本市場参入を促進。また、フードテック特化イベントを企画・運営し、Plug and Play Japan主催のDemo Dayを成功裏にリード。
大野 泰敬	株式会社スベックホルダー 代表取締役社長 農林水産省 農林水産研究所 客員研究員	多様な分野で活躍する事業家兼投資家。通信会社での勤務を経て独立し、コンサルティング会社を設立。大手企業20社以上に対して、事業戦略、M&A、資金調達などのサポートを提供し、高い実績を築いてきた。テクノロジー分野における深い知識を活かし、オリンピックのITアドバイザーを務めたほか、麗澤大学、農林水産省、明治大学での客員職を経験。日経を初めとする多数のFM番組でメインパーソナリティとしても活躍している。特に、大企業と地域企業の連携を通じて新たな事業機会を創出し、地域社会の課題解決に貢献。
平尾 明子	株式会社NTTドコモ・ベンチャーズ Investment & Development Manager	NTTコミュニケーションズ(NTTCom)にエンジニアとして新卒入社。シンガポールへの出向を経て、帰国後はスタートアップとの共創を進めるべく、主に海外スタートアップ（米国）の発掘や事業部連携PoC支援を担当。 2022年7月にNTTドコモ・ベンチャーズへ参画し、スタートアップとNTTの事業会社の共創支援を担当。フードテック分野の調査も担当。
村田 靖雄	Future Food Fund 株式会社	オイシックス・ラ・大地株式会社で、スタートアップ投資を行うCVC Future Food Fundのファンドマネージャー。2019年に、Future Food Fund1号投資事業有限責任組合の組成、2024年同2号の組成を行う。 CVCに移動する前は、Oisixでの青果MDマネージャーや、リアル店舗の事業管理に従事。専門は植物生理学で大阪市立大学理学研究科修士課程を修了。

① 審査委員の選任（2/2）

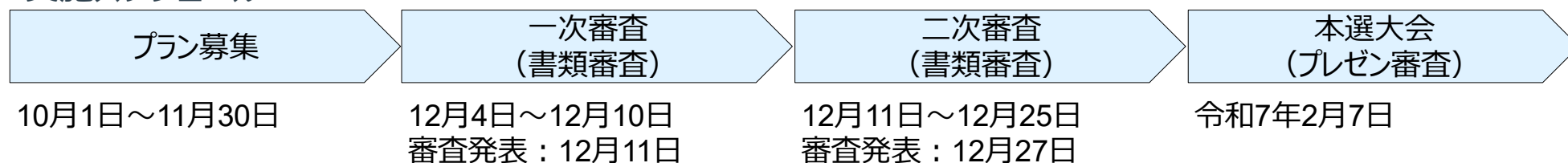
本審査委員では二次審査の審査員と重複しない形で、以下5名を選任した。

氏名	所属・役職	プロフィール
荻野 浩輝	一般社団法人AgVenture Lab 代表理事理事長 農林中央金庫 特別参与 神戸大学アントレプレナーシップセンター 客員教授	1990年農林中央金庫入庫。有価証券やデータシステムの構築やITリスクマネジメントなどを歴任。 2000年、カリフォルニア大学バークレー校でインターネットビジネスを学ぶ。執行役員兼デジタルイノベーション推進部長を経て、2019年より一般社団法人AgVentureLab代表理事理事長、2021年より農林中央金庫特別参与。
小木曽 麻里	株式会社 SDGインパクトジャパン	SDGインパクトジャパン共同設立者兼Co CEO。 インパクトベンチャーファンドやESGエンゲージメントファンドを通じたSDGsの実現に携わる。世界銀行にて要職を歴任したのち、ダルバーク日本代表、ファーストリテイリングのダイバーシティヘッド及び人権事務局局長を務めた。三菱商事、テルモ株式会社取締役の他、企業やNPOのアドバイザーや理事、政府の委員なども多く務める。
沢田 明大	東京建物株式会社 一般社団法人Tokyo Food Institute	北海道帯広市出身。慶応義塾大学環境情報学部卒業後、東京建物株式会社にて、住宅事業を担当し、米国東京建物駐在を経て、国内外不動産のクロスボーダー取引を担当。2021年より、サステナブルのその先“リジェネラティブ”な社会を東京から実現するため、様々なみなさんとFOOD食を軸とした共創によるイノベーション創出をサポート。
田中 宏隆	株式会社UnlocX 代表取締役CEO SKS JAPAN Founder	パナソニック、マッキンゼーを経て、17年シグマクシスに参画しグローバルフードテックサミット「SKS JAPAN」を立上げ。食に関わる事業開発伴走、コミュニティづくりに取り組む中で、食のエコシステムづくりを目指し2023年10月株式会社UnlocX創設。 『フードテック革命』（20年/日経BP）共著。一般社団法人 SPACE FOODSPHERE理事／ベースフード株式会社 社外取締役／TechMagic株式会社 社外取締役。
堀部 恭二	アグリビジネス投資育成株式会社 取締役 代表執行役社長	東京都出身。早稲田大学法卒。1997年農林中央金庫入庫。営業企画部副部長、本店出向（SBIホールディングス株）、アグリビジネス投資育成株執行役兼投資育成部長を経て、2024年4月より現職に就任。

② ビジネスプランの募集（1/2）

農林水産省との協議の上、以下の通り行った。

実施スケジュール



募集テーマ

世界的な人口増加や温暖化による食料需要の増大、国内の人口減少・少子高齢化の進展に伴う人材確保難、人々の価値観の多様化による食に求めるニーズの多様化など、「食」に関する社会課題の解決に繋がるビジネスアイデアを以下の3つのテーマから募集した。

A：持続可能な食料供給の実現×フードテック	テーマ例：次世代食品の開発（代替たんぱく質の活用等）、フードロスの削減、環境負荷を抑えたバリューチェーンモデル 等
B：食品産業の生産性向上の実現×フードテック	テーマ例：スマート農業・水産業、食品産業の自動化・省人化・DX 等
C：豊かで健康な食生活の実現×フードテック	テーマ例：栄養価の高い食品の開発、多様な食ニーズ（健康志向や環境志向、アレルギー、ヴィーガン等）に対応した製品・サービス、スマートキッチン、食の安全性 等

募集プラン

ビジネス部門	法人やNPO団体等において、新たに事業検討が行われているプラン、または既に展開中の事業のうち上市から5年以内の製品もしくはサービスを活用したプラン ※企業や団体の設立年は不問
個人部門	個人部門：個人（学生を含む）やチーム（法人設立前）において、「食」に関する社会課題の解決に繋がるアイデア段階のプラン ※事業検討の有無は不問

② ビジネスプランの募集（2/2）

フードテック官民協議会ウェブサイトにて募集要項を公開。メルマガ、ウェブサイト、SNSでの情報発信や、地方フードテックミーティングでの紹介、インキュベーション施設等への周知依頼を実施し、105件の応募があった。

ウェブサイトイメージ



周知先（一例）

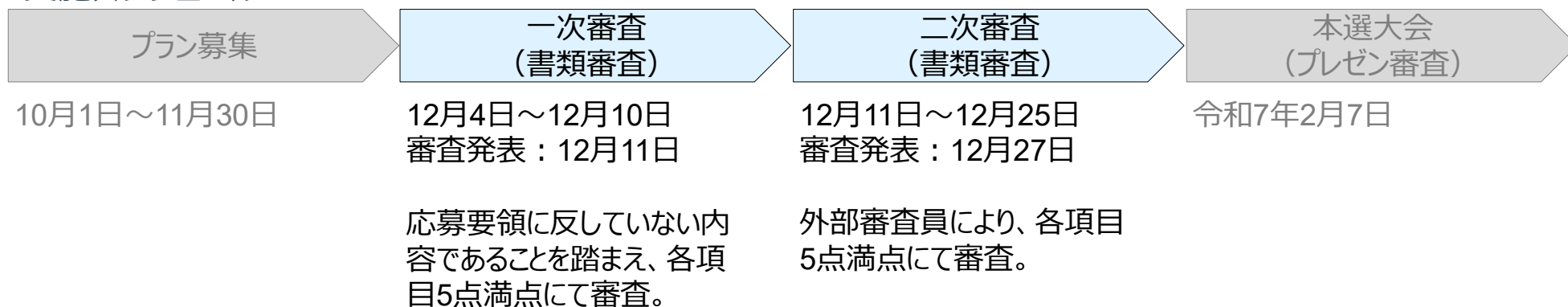
- 全国800か所以上のインキュベーションセンター、支援機関、企業、大学、農業大学校、高校に問合せ、周知依頼を実施。

AgVenture Lab
CIC Tokyo
中小機構
神戸市
熊本市
名古屋大学大学院生命農学研究科・農学部
日本大学生物資源科学部
麻布大学
Healthcare Innovation Hub

③ 審査委員会の運営

1次審査、2次審査は以下要領で書面開催とした。

実施スケジュール

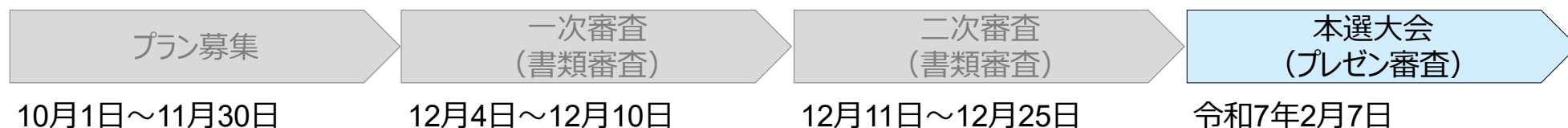


審査項目

1. 新規性（独自性のある着眼点やプラン内容か）
2. 市場性（ターゲットとする市場・ニーズに成長の可能性はあるか）
3. 実現可能性（プランやその計画が実際に実行可能な内容か）
4. 社会貢献性（プランが社会に与える影響や社会への貢献度）
5. 参加者の熱意（プレゼン・質疑応答などの姿勢） ※本選のみ

④ 本選審査及び表彰式の運営（1/3）

本選審査はピッチ大会として、京橋エドグランで開催した。



開催概要

日時：2月7日（金）13:00～18:00

場所：京橋エドグラン29F（オンライン併催）

参加者：現地101名、オンライン62名

議事：

1. 開会挨拶・審査員紹介
2. 個人部門：プレゼンテーション
3. ビジネス部門：プレゼンテーション
4. 副賞・二次審査員紹介
5. 結果発表
6. フォトセッション
7. 交流会



④ 本選審査及び表彰式の運営（2/3）

本選出場者は個人部門から6名、ビジネス部門からの12名。情報はウェブサイトにて公開（<https://food-tech.maff.go.jp/business-contest/contestants2025/>）

個人部門

所属	氏名	プラン名
仁愛大学 安彦研究室	伊藤 優志	噛んで予防!「噛むぼこ」～高齢者のオーラルフレイル予防・改善に寄与する製品～
株式会社リコー	岡崎 駿	植物の気持ち可視化 & 動画配信サービス
新潟大学	佐藤 拓人	アップサイクル型災害食バックごはん「さつまクルん」
宮崎大学	星崎 圭亮	『新廻魚』～「もったいない」を美味しに！未来型エコフードビジネス
—	渡辺 紳一郎	未来の水供給システム「Sky Aqua Transport」
—	渡邊 尋思	ヘルシーな食文化&和食の原点である精進料理に着目した、京生湯葉を用いた創作精進料理のファストフードチェーンブランドyuppa

ビジネス部門

所属	氏名	プラン名
株式会社スキルディッシュ	井潟 百之威	「人手不足に悩む食品企業」と「食品業界で働きたい特定技能外国人」が直接繋がる採用プラットフォーム
株式会社フェイス	石崎 貴紘	持続可能な農業生産をカーボנקレジットシステムを使って実現
株式会社ノビアス	井上 史之	次世代フードデザインで革新する「食」と「健康」
株式会社WAKU	片野田 大輝	植物のCO2固定機能を向上するグルタチオンを活用した、農業における環境負荷低減および食料増産の両立
株式会社オリゼ	河原 あい	米麹由来の発酵甘味料「オリゼ」～日本の伝統技術が創る未来の豊かな食卓～
株式会社ファームステーション	酒井 里奈	食品・飲料メーカーで発生する食品廃棄物を原料とした独自の発酵アップサイクル技術による機能性素材開発及び発酵アップサイクルプラットフォームの構築
トイメディカル株式会社	竹下 英徳	海藻由来の塩分コントロール技術で、美味しいと健康をトレードオフにしない世界を実現させる
株式会社クールイノベーション	田山 貴教	Waste to Wealth: 世界のフードロスを経済成長と健康な社会の源に。国内外実証済みの技術でサステナブルな未来を築く。
Wada FoodTech Group Co., Ltd.	チェン ジュン	ホットチェーンフードテックを活用した分散型フードサービスプラットフォーム 初期コスト、労働力、食品安全の課題を解決し、飲食店の販売チャネル拡大を支援
株式会社ROX	中川 達生	ラベル作成の革命！3時間の作業を15分に短縮するAI食品表示ツール -Swallow-
fabula株式会社	町田 紘太	100% 食品廃棄物から新素材を開発する事業
株式会社NINZIA	寄玉 昌宏	蒟蒻で叶える食の自由と健康な未来

④ 本選審査及び表彰式の運営（3/3）

プレゼン審査により以下6名が受賞した。情報はウェブサイトにて公開（<https://food-tech.maff.go.jp/business-contest/contestants2025/>）

ビジネス部門	🏆 最優秀賞	竹下 英徳 (トイメディカル株式会社)	海藻由来の塩分コントロール技術で、美味しいと健康をトレードオフにしない世界を実現させる
	🏆 優秀賞	田山 貴教 (株式会社クールイノベーション)	高湿度環境でもダンボールを乾燥に維持出来る鮮度維持技術
	🏆 優秀賞	町田 紘太 (fabula株式会社)	100% 食品廃棄物から新素材を開発する事業
個人部門	🏆 最優秀賞	渡邊 尋思 (フリーランス)	ヘルシーな食文化&和食の原点である精進料理に着目した、京生湯葉を用いた創作精進料理のファストフードチェーンブランドyuppa
	🏆 優秀賞	佐藤 拓人 (新潟大学)	アップサイクル型災害食パックごはん「さつまクルん」
🏆 オーディエンス賞		酒井 里奈 (株式会社ファームステーション)	食品・飲料メーカーで発生する食品廃棄物を原料とした独自の発酵アップサイクル技術による機能性素材開発及び発酵アップサイクルプラットフォームの構築



⑤ 副賞等の企画

FTBCサポーターとして計18社より副賞が提供された。情報はウェブサイトにて公開（<https://food-tech.maff.go.jp/business-contest/supplementaryprize/>）

FTBCサポーター一覧

スペイン大使館	アグリ創研株式会社
Archetype Ventures	SK弁理士法人
株式会社SDGインパクトジャパン	株式会社中西製作所
kemuri ventures	ICS-net株式会社
PARTNERS FUND	宝ホールディングス株式会社
Plug and Play Japan	雪印メグミルク株式会社
Sustainable Food Asia 株式会社	Future Food Fund株式会社
CIC Institute	株式会社MNH
めぐるめくプロジェクト（運営：三菱地所株式会社）	中小機構

⑥ 受賞者の情報発信

フードテックビジネスコンテスト開催後は、受賞者の情報発信を行った。

情報はウェブサイトにて公開（https://food-tech.maff.go.jp/business-contest/r06bc_report/）

開催レポート

フードテック 官民協議会

フードテック 官民協議会について ● お知らせ ● イベント カレンダー ● ビジネス コンテスト ● お問い合わせ

フードテック官民協議会／令和6年度

フードテックの可能性を探る！ ビジネスコンテストで見た未来

令和6年度 フードテックビジネスコンテスト開催レポート



令和5年度の本選大会
開催レポートはこちら

フードテックの新時代へ！——2025年2月7日、『未来を創る！フードテックビジネスコンテスト』本選大会がartience株式会社 インキュベーションセンター（京橋エドグラン29階）で開催されました。フードテック官民協議会が主催、第三回となる今回は、一次および二次審査を通過した18組が出場しました。

フードテックとは？活性化の意義

フードテックとは、持続可能な食料供給や、美味しく、文化的で健康的な食生活を過ごした高いQOL(Quality of Life)を実現する次世代のフードシステムを構築する上で欠かせないキーテクノロジーを指します。人口増加に対応した食料供給や環境保護等の社会課題の解決につながると期待されています。また健康志向やアレルギー対応等、食に求める人々のニーズの多様化に対応するビジネスとしても注目されています。

日本でもフードテックによるスタートアップの動きが活発化する中、農林水産省が2020年10月に食・農林水産業の発展や食料安全保障の強化に資するフードテック等の新成長技術について、協調関係の醸成や新市場開拓を促進するため、民間企業、研究機関、行政からなる「フードテック官民協議会」を創設し、官民連携の取り組みを推進。この一環で、日本発のフードテックビジネスの育成及びフードテックビジネスの認知度向上に繋げることを目指し、令和4年度から「未来を創る！フードテックビジネスコンテスト」を実施しています。

受賞者インタビュー

令和6年度／未来を創る！フードテックビジネスコンテスト

【ビジネス部門 最優秀賞】 受賞者インタビュー

竹下英徳さん（トイメディカル株式会社）



令和6年度
未来を創る！フードテックビジネスコンテスト
ビジネス部門
最優秀賞
FOODTECH・BUSINESS CONTEST

2025年2月7日に都内で実施された『令和6年度／未来を創る！フードテックビジネスコンテスト』本選大会、その中でビジネス部門最優秀賞に輝いたトイメディカル株式会社 竹下英徳さんにお話を伺いました。
『高齢化率の急増に伴って、美味しく健康的な食生活を営むことが重要になる』というテーマで今回のビジネスコンテストに参戦した竹下さんは、どのような思いで応募に参戦したのでしょうか？

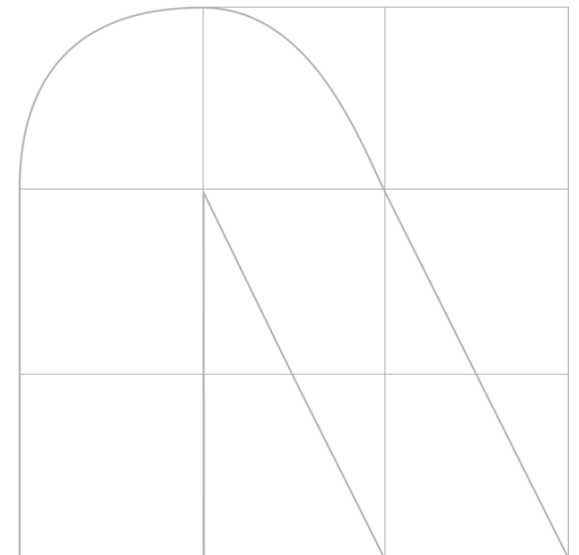
減塩に代わる新提案、 ポジティブに塩分をなかったことにする

「多くの皆さんがユニークで素晴らしいプレゼンをされる中で、今回優勝することができ、大変嬉しく思っています。皆さんと一緒にフードテックをさらに盛り上げていければと思います」と、最優秀賞の喜びを語る株式会社トイメディカルの竹下英徳さん（同社代表取締役）。

トイメディカルは、日本人の塩分摂取量の多さに対して、減塩という食事制限ではなく、塩分由来のアルゲン酸糖を用いて塩分を排除するという斬新なアイデアを提案しました。減塩は塩分摂取を減らす効果的な方法ですが、せっかくの食事が味気のないものになることが課題です。



(5) WT・CCの進行管理及び運営支援



① 活動概要

今年度は新設が4件、閉会が2件あり、現在13のWT・CCとなっている。

作業部会（ワーキングチーム）

Plant Based Food普及推進

サステナブルな選択ができるよう、プラントベースフードの意義や行動変容を促す方策の検討を行う。

休会中

SPACE FOOD

宇宙食に係るフードテックの研究開発目標やロードマップ等について検討を行う。

細胞農業

細胞農業(培養肉)の安全性・表示の在り方、消費者とのコミュニケーションなどの検討を行う。

昆虫ビジネス研究開発

動物飼料用、食料用の昆虫の市場形成するため、生産方法、安全性評価、情報収集を行う。

サーキュラーフード推進

休会中

廃棄されるはずだった食を新たな食料として循環を推進し、持続可能に向けた検討を行う。

美食テック

料理人のノウハウとテクノロジーを融合し、美食テック産業の創出に向けた検討を行う。

食生活イノベーション

デジタル技術を活用し食を通じたコミュニケーションを検討を行う。

ヘルス・フードテック

食の高いQOL実現に向け、検討体制を構築、技術課題を特定、解決策検討を行う。

食と教育

新設

教育の場を通じてフードテックの普及や食のサステナビリティ向上を推進する。

コミュニティ・サークル

細胞農業

理解やコミュニケーションの場を設定し、細胞農業が適切に社会受容の形成を目指す。

健康×おいしさの食品機能

おいさと健康を両立する食品の機能性や技術、食行動変容の可能性について議論を行う。

食スタートアップ未来会議

新設

食領域スタートアップ経営者が主体となり、業界課題の解決策や成長戦略の検討を行う。

金融勉強会

新設

フードテックにおける金融機関によるエンゲージメントの在り方について検討を行う。

2024年度閉会

スマート育種産業化 WT

FOOD TECH Lab CC

② 進行管理及び運営支援

活用状況に関する意見交換・ヒアリングを実施。今年度はWT・CCからロードマップの改訂要望は無かった。
また、上限15万円/年として、事前申請のあったWT・CC活動（セミナー・勉強会等の講師謝金、会場費等）の費用補助を実施した。

意見交換・ヒアリング実施状況

意見交換会

- 2024年5月
- 活動状況と取組予定、官民協議会への要望
 - ロードマップ改訂方針・活動費用補助の説明 等

WTCC活動の聴講 総会等での活動状況ヒアリング

2024年6月～12月

活動状況ヒアリング

- 2025年1～2月
- 今年度の活動状況と次年度の予定

WT・CC	今年度活動	次年度の予定・意向等
昆虫ビジネス研究開発WT	なし（適宜ガイドラインの問合せ対応）	要望を受けてガイドラインアップデート検討予定
サーキュラーフード推進WT	なし	次期代表候補と調整中
細胞農業WT	6/25 勉強会	安全性関連のシンポジウムを企画中
食生活イノベーションWT	なし	未定
Plant Based Food普及推進WT	10/31 WT会議	同様の形式で継続予定
ヘルス・フードテックWT	7/11、1/16、2/18WT会議	同様の形式で継続予定
健康×おいしさの食品機能CC	2か月に1度の勉強会	同様の形式で継続予定
細胞農業CC	8/29、3/27イベント（第6回細胞農業会議、メンバーの海外動向調査派遣など）	同様の活動継続と、細胞農業に関する助成金プロジェクトを実施予定
FOOD TECH Lab CC	随時HP更新。今年度で終了	—

NTT DATA

株式会社NTTデータ経営研究所

Lighting the way
to a brighter society